SONY

4-150-535-01(1)

アクティブサブウーファー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

SA-W7700

設置する

設置について

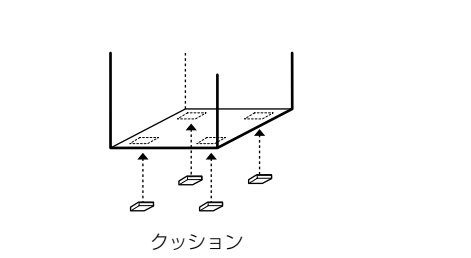
人間の耳では、本機で再生される音（200Hz以下の低音域）がどこから聞こえてくるのか、その方向を感知できません。したがって、本機をお好きな場所に設置してお使いいただけます。しっかりした床面に設置すると不要な共振などが発生せず、よりよい重低音再生をお楽しみいただけます。

ご注意

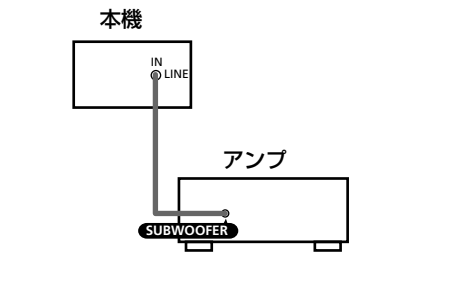
- 本機は壁から5cm以上離してください。
- 本機の上に物をのせたり、腰掛けたりしないでください。
- 部屋の中央付近に本機を設置すると、重低域が極端に減少する場合があります。これは部屋の定在波の影響によるものです。このため、部屋の中央付近への設置を避けるか、定在波が起きにくいように壁際に本棚などを置いて部屋の平行面をなくすことをおすすめします。

サブウーファーの設置

振動やすべりを防ぐために、スピーカー底面の4か所に付属のクッションを貼ってください。

クッション

接続する

接続について

ライン入力端子をアンプと接続します。

接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- 接続にはそれぞれの機器に付属しているオーディオ接続コードをお使いください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。
- 電源コードを接続するときは、壁のコンセントに直接つないでください。

電源コードをコンセントにつなぐ

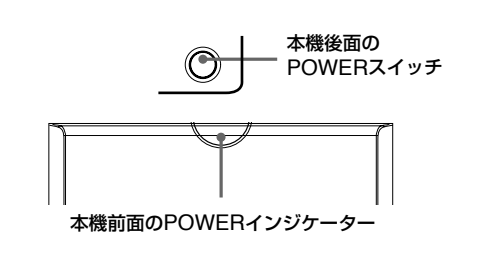
- 電源コードを、壁のコンセントにしっかりと差し込んでください。
- 電源コードを抜き差しするときは、本機の電源は必ず切ってください。

音を聞く

最初にアンプの音量を下げてください。音源の再生前に音量を最小にすることをおすすめします。

1 アンプの電源を入れて、聞きたい音源を選ぶ。

2 本機後面のPOWERスイッチを押して本機の電源を入れる。

本機前面のPOWERインジケーターが緑色に点灯します。

3 聞きたい音源の演奏を始める。

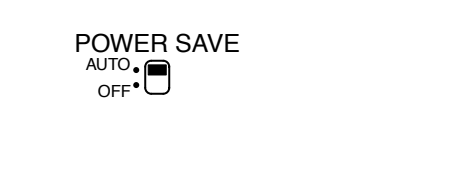
アンプの音量は、出力がひずまない範囲で調節してください。

接続されるアンプの出力がひずむと本機からの出力も同じようにひずみます。

ご注意

- アンプのトーンコントロール（BASS、TREBLEなど）やイコライザーを大出力で使ったり、市販のテストディスクに入っている20Hz～50Hzのサイン波や特殊な音（電子楽器の低音、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など）を連続して大出力で加えることは、絶対に行なわないでください。スピーカーの破損の原因となることがあります。
また、低音が異常に強調された特殊ディスクでは、本来の音以外に異音を発する場合があります。これは、スピーカーユニット自身の限界を超えた「バタ付き」現象です。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。
- 単独で発売されているデジタルサラウンドプロセッサーを搭載したサブウーファーの出力（ドルビーデジタル信号）はドルビーラボラトリーズにより10dB高く設定されています。通常の状態で使うにはウーファーのレベルを調節してください。

電源の入/切を自動的にする
— オートパワーオン/オフ機能

本機の電源が入っているとき（POWERインジケーターが緑色に点灯）、信号が入力されない状態が数分間続くと、パワーセーブ状態になります（POWERインジケーターが赤色に点灯）。このとき再び信号が入力されると、自動的に本機の電源が入ります。
この機能をご使用になりたくないときは、本機後面のPOWER SAVEスイッチをOFFにしてください。

ご注意

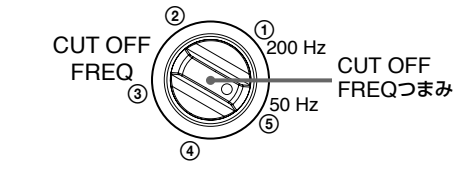
アンプの音量を極端に小さくしていると、オートパワーオン/オフ機能が働き、パワーセーブ状態になることがあります。

音を調節する

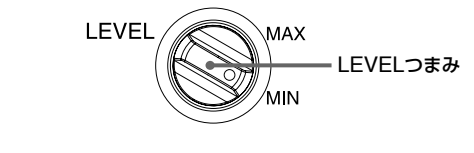
お手持ちのフロントスピーカーに合わせてサブウーファーの音を調節することができます。低音を補強することで、音楽や映画に迫力や臨場感が生まれます。

1 カットする周波数を調節する。

CUT OFF FREQつまみで調節します。お手持ちのフロントスピーカーの大きさに応じて調節してください。以下の図が目安です。

① 超小型スピーカー　直径4 ~ 5 cm
② 小型スピーカー　直径6 ~ 8 cm
③ 中型スピーカー　直径9 ~ 15 cm
④ 大型スピーカー　直径16 ~ 24 cm
⑤ 超大型スピーカー　直径25 cm以上

重低音再生を効果的に楽しむには

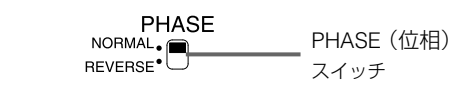
LFE出力やドルビーデジタル、DTSを再生する場合、本機のカットオフ周波数を200Hz（最大）に設定することをおすすめします。低域再生機能が最大限生かされます。

2 サブウーファーの音量を調節する。

LEVELつまみで調節します。つまみを徐々に右に回し、サブウーファーがないときより、若干低音が聞こえるくらいに合わせます。

つまみを右に回す（MAX側）と音量が大きくなり、左に回す（MIN側）と小さくなります。

3 いつも聞いているお好みの曲や映画を再生する。

低音の入った、男性ボーカルの曲や男性のセリフなどが適しています。アンプ（フロントスピーカー）の音量は、普段聞いているくらいの大きさにしておきます。

4 位相極性を切り換える。

PHASEスイッチで切り換えます。男性のボーカルやセリフなどの最も低音部分が聞こえる極性を選んでください。

5 手順1～4を繰り返す。

お好みに応じて微調節してください。

一度調節すれば、サブウーファーの音量は、アンプの音量調節に連動してコントロールされます。アンプの音量に合わせて再度調節する必要はありません。

ご注意

- アンプの音場効果調節機能によっては、音が歪むことがあります。その場合は音場効果などを切ってください。
- 音質のよい状態で楽しむには、サブウーファーの音量を上げすぎないでください。
- 本機と組み合わせたアンプの低音調節機能（D.B.F.B.、GROOVE、グラフィックイコライザーなど）をONにすると、音が歪むことがあります。
その場合はD.B.F.B.などを切って音を調節してください。
- LEVELつまみをMAXの位置まで回さないでください。上げすぎると低音が軽くなり、力強さがなくなります。さらに上げると音源にないノイズが出ることがあります。
- フロントスピーカーの種類や本機の設置場所、CUT OFF FREQつまみの位置によっては、PHASEスイッチで「NORMAL」または「REVERSE」を選んだ方が低音再生が良好になる場合があります。また低音だけでなく、全帯域にわたって音の広がりや印象が変化し、音場感に影響します。お好みに応じて切り換えてください。

使用上のご注意

電源について

家庭用電源コンセント（AC100V）につないでご使用ください。国内用ですので海外ではご使用になれません。

電源コードについて

電源コードを無理に曲げたり、上に重いものをのせたりしないでください。コードに傷がついて火災や感電の原因になります。傷がついたコードは使わないでください。また、電源コードを抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードをコンセントから抜く場合

電源コードをコンセントから抜くときはスイッチをOFFにしてから抜いてください。

アンプやプログラムソースの電源のON/OFF、スイッチの切り換え時には

アンプの音量を最小にしてください。

留守にするときは

ご旅行などで長い間ご使用にならないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

ウーファーの破損を防ぐために

- 大きな音を出しすぎると、音質を損ねたり、スピーカーが破損する恐れがありますので、LEVEL（音量）つまみの位置にご注意ください。
- スピーカーユニット、エンクロージャーは分解したり改造したりしないでください。

スピーカーの防磁について（テレビ画面に色むらが起きたら）

ブラウン管タイプのテレビやプロジェクターと一緒に使用する場合は充分に（約30cm）離してご使用ください。本機をこれらに近づけすぎると画面に色むらが生じる場合があります。

色むらが起きたら…

→ いったんテレビの電源を切り、15〜30分後に再びスイッチを入れてください。

それでも色むらが残るときは…

→ スピーカーをさらにテレビから離してください。

さらに…

→ スピーカーの近くに磁気を発生するものがないようにご注意ください。スピーカーとの相互作用により、色むらを起こす場合があります。

磁気を発生するもの……ラック、置き台の扉に装着された磁石、健康器具、玩具などに使われている磁石など。

設置について

- 本機の角でけがなどをしないように、お気をつけください。
- テレビなどの映像機器に接続されたコードを束ねたり折りたたんだ状態で本機の後部に配置しないでください。映像にノイズが出る場合があります。

設置場所について

次のような場所には置かないでください

- 温度の高いところ、直射日光の当たるところ
- ほこりの多いところ
- 湿気の多いところ
- 振動がプレーヤーに伝わるところ（ハウリング防止のため）

特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床にスピーカーを置くと、床に変色、染みなどが残ることがあります。

ハウリングについて

本機をレコードプレーヤーのそばに置くと、「ボワーン」というハウリング現象が起こることがあります。その時は、レコードプレーヤーと本機を離すか、本機の音量を下げてください。また、まれにカセットデッキやコンパクトディスクプレーヤー、レーザーディスクプレーヤーでもハウリング現象により、音がひずんだり、画像が乱れることがあります。その時も、本機との距離を離すか、音量を下げてお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

柔らかい布を水で湿らせ、固くしぼってからふいてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

音切れについて

長い時間、または瞬時に大出力でご使用になると保護回路が働き、音が途切れる場合があります。そのときは一度電源を切り再度電源を入れてください。リセットされ、音が出ます。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいときは、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

音が出ない

- オーディオ接続コードのプラグをしっかり差し込む。
- アンプの音量をあげる。
- LEVELつまみがMINに近くなっているので、右へ回して音量をあげる。
- アンプのプログラムソースを正しいものに切り換える。
- ヘッドホンが接続されているので、はずす。
- LEVELつまみを調整する。

急に音が出なくなった

- 全ての機器の接続を正しくする。オーディオ接続コードが確実に接続されているか確認する。

音がひずむ

- 入力信号が適正でない。プログラムソースを切り換える。
- 入力信号が大きすぎる。サブウーファーのLEVELつまみを左に回して音量を下げる。
- ドルビーデジタルを再生するときは、カットする周波数をできるだけ高く設定する。

ハム音や雑音が出る

- レコードプレーヤーのアース線をしっかり接続する。
- オーディオおよびオーディオ接続コードと端子の接続が不充分なので、充分に差し込む。
- テレビからの雑音を拾っているので、テレビとオーディオ機器とを充分に離すか、テレビの電源を切る。

主な仕様

システム

形式	バスレフ型　アクティブサブウーファー
使用スピーカー	250 mmコーン型ウーファー
実用最大出力（JEITA*）	100 W
再生周波数帯域	28 Hz ~ 200 Hz
ハイカット周波数	50 Hz ~ 200 Hz
フェーズ切り換え	NORMAL, REVERSE

入力端子

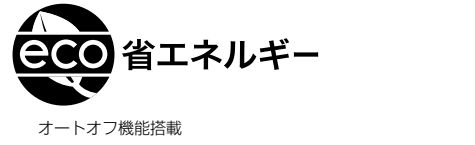
ライン	ライン入力（ピンジャック）

電源、その他

電源	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	55 W 0.3 W（スタンバイモード）
最大外形寸法	約350 ×350 ×350 mm （幅/高さ/奥行き、グリルネットを含む）
質量	約10 kg
付属品	クッション（4） オーディオ接続コード（1） 取扱説明書（1） サービス窓口、ご相談窓口のご案内（1） 保証書（1） 製品カスタマー登録のお願い（1）

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

オートオフ機能搭載

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が、添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「サービス窓口、ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：SA-W7700
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-333-020
携帯電話･PHS･一部のIP電話‥‥0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥0120-222-330
携帯電話･PHS･一部のIP電話‥‥0466-31-2531

※取扱説明書･リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389　**受付時間** 月〜金：9:00〜20:00　土･日･祝日：9:00〜17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/